

第2回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の在り方に関する検討会 議事要旨

1. 日時：令和7年6月5日（木）10:00～12:00
2. 場所：中央合同庁舎8号館5階C会議室
3. 出席者
 - (1) 構成員
益座長、塩見座長代理、大栗委員、栗井委員、高橋委員、塚本委員
 - (2) 内閣府
齊藤沖縄振興局長、中嶋審議官、藤吉審議官、藤嶋総務課長、田中室長
 - (3) OIST (オブザーバー)
マルキデス理事長兼学長、加藤副理事長兼事務局長、成田副学長、レイ副学長
4. 議事要旨

議事1 OISTの現状と将来構想について（資料1）

マルキデス学長から説明が行われた。委員の主な指摘・意見は以下のとおり。

- 教員採用の領域の優先順位をどう設定したか、長期戦略をどう立てているかを把握したい。
- 教員採用において特定の分野に焦点を当てると厳格すぎる印象を受ける。
- 外部評価委員会、研究展望委員会の報告書の提供を受け、本検討会の議論の参考としたい。
- OISTの5つの研究分野と一般的な大学の学部・研究科との構造、マネジメントの仕組みの違いはどのようなものか。
- 5年間のハイトラストファンディングは国立大学にないOISTの特徴と言えるが、5年間のを終えた後の競争的資金、助成金等の獲得のためには、研究者側と経営者側と双方の努力が重要。
- 日本にとってのメリットを考えると、一定数の優秀な研究者に長く在籍してもらうため子弟教育のビジョンを持つべき。
- 資料に記載されているオープンセンターが日本のサイエンスの発展を加速させる展望はあるか。
- 沖縄の振興及び自立的発展は難しい概念だが、どう測るか。
- スタッフ・サイエンティスト等の存在は一般的な日本の大学のラボと構造が違う部分だが、彼らが任期制でユニットの活力を支えているのか。彼らが日本の他大学で採用されることにより、日本のサイエンスコミュニティへの貢献が期待できるのか。

OISTからの主なコメントは以下のとおり。

- 教員採用は外部評価の意見も参考にしている。また機会がある時に採用するなどしており必ずしも厳格な運用ではない。
- 大学の拡充を目指す上で研究ユニット組織の維持は強みとなる。オープンセンター、テストベッド、NeXus等の取組により研究ユニットをクラスター化していきたい。
- 沖縄における持続可能なエネルギー供給に向けた持続的貢献が沖縄貢献の具体策の一つと言い得る。
- 子弟教育の問題も重要な課題と認識している。

議事2 組織運営、広報について（資料2-1, 2-1-1, 2-2, 参考資料）

事務局及び加藤事務局長から説明が行われた。委員の主な意見・指摘は以下のとおり。

- 教授会、PIが大学の運営にどのように関わっているかも重要。
- 事務管理部門、経営管理部門で長期の経営方針にコミットメントできる人材の採用、育成に時間をかけてほしい。
- 事務部門においては、外資系企業でも課題となっている成果主義の人事評価への対応は重要。
- 国から補助された資金の使途や成果について国民・沖縄県民に説明責任を果たしていかなければいけない。

OISTからの主なコメントは以下のとおり。

- 以前事務管理職が2～3年の有期雇用だったところを無期雇用にするなど優秀な人材の獲得に努めており、長期のコミットメントにつながると考える。
- 10年を超える活動の中でアウトカムの蓄積もあり、広報戦略に生かしていきたい。

以上